

全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

さわやかな秋の風を感じる頃となりました。保護者のみなさまには日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月に中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。この結果を踏まえ、今後の本校としての取組についてご説明いたします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、生徒一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。保護者のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をしていただけますようお願いいたします。

調査結果の概要

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国	76	61	66	47	66
神奈川県	76	62	66	48	66
横浜市	76	63	67	50	66
岡野中	78	63	72	55	68

○国語A・・・主として「知識」に関する問題

・全国の正答率と比較して、本校の場合「話すこと・聞くこと」領域は5.4ポイント、「書くこと」領域は0.4ポイント、「読むこと」領域は3.9ポイント上回っていました。また「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域は1.1ポイント上回っていました。

- *「話すこと・聞くこと」：全般的によくできていますが、特に「話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す」ことがよくできていました。
- *「書くこと」：全般的によくできていますが、特に「段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする」ことができていました。
- *「読むこと」：「段落の役割を捉え、内容の理解に役立てる」ことがよくできていましたが、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」ことに課題がありました。
- *「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：「文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすることや「語句を文脈の中で適切に使う」ことに課題がありました。

○国語B・・・主として「活用」に関する問題

・全国の正答率と比較して、本校の場合「話すこと・聞くこと」領域は1.9ポイント、「書くこと」領域は1.5ポイント、「読むこと」領域は1.3ポイント上回っていました。また「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域は2.5ポイント上回っていました。

- *「話すこと・聞くこと」：「相手の反応を踏まえながら話す」ことがよくできていました。
- *「書くこと」：「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」ことがよくできていました。
- *「読むこと」：「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」ことに課題がありました。

☆具体的な改善案

国語全般的に全国の正答率を上回っています。「話すこと・聞くこと」領域は発表を取り入れた学習の成果が上がっていると考えられます。また、「読むこと」領域では、文章の展開や情景描写などに注意しながら読み取る学習を工夫し、理解が深まる授業を展開させていきたいと考えています。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域では、今後も基礎基本である漢字の学習や、具体的な表現と結び付けた語句・語彙の指導を継続的に取り入れていきたいと思っております。

○数学 A…主として「知識」に関する問題

* 数学的な技能：全国の正答率と比較して、7.4%上回っていました。特に、等式の性質の問題、式の値を求める問題、比例のグラフから変域を求める問題、回転移動の作図の問題が10%以上高くなりました。

* 数量や図形などについての知識・理解：

全国の正答率と比較して、5.3%上回っていました。特に、絶対値の意味の問題、等式の性質の問題、連立方程式の立式の問題、四角錐の体積の問題、確率の意味の問題が10%以上高くなりました。しかし、多角形の内角の和の性質の問題、最頻値の意味の問題、対頂角の証明の問題、角の二等分線の問題、平行四辺形の特別な形の問題は、全国の正答率と比べて2~5.6%低く課題がありました。

○数学 B…主として「活用」に関する問題

* 数学的な見方・考え方：

全国の正答率と比較して、9.9%上回っていました。特に、直線のグラフの解釈の問題、平行四辺形になるための証明問題、事柄が成り立つ説明、確率における事柄の起こりやすさの問題が全国の正答率と比べて10%以上高くなりました。

* 数学的な技能： 全国の正答率と比較して、9.9%高くなりました。

☆具対的な改善案

数学Aの全体では、5.9%、数学Bの全体では、8.1%全国の正答率を上回っていました。数と式の領域では、振り返りを大切にして基礎的な内容の定着を図ってきたこと、資料の活用の領域では数学的活動を通じた学習が良い結果に繋がったと考えられます。しかし、図形の領域において知識の曖昧なところがありましたので、学習した内容を忘れないように日頃の授業で復習していきたいと思えます。

○理科

- * 物理的領域：全国の正答率より高くなりました（全国74.4% 岡野中75.9%）
特に光の道筋を説明する問題（全国73.7% 岡野中80.5%）が高い正答率でした。
- * 化学的領域：全国の正答率より高くなりました（全国65.0% 岡野中65.8%）
特に化学変化を原子や分子のモデルで説明する問題（全国49.4% 岡野中56.3%）が高い正答率でした。
- * 生物的領域：全国の正答率より低くなりました（全国72.5% 岡野中71.8%）
特に実験に使う食塩水の質量パーセント濃度を求める問題（全国46.9% 岡野中36.8%）が低く、改善が必要です。
- * 地学的領域：全国の正答率より高くなりました（全国57.8% 岡野中61.7%）
特に太平洋高気圧の特徴についての知識を問う問題（全国67.3% 岡野中73.6%）が高い正答率でした。

☆具体的な改善案

自然事象への関心・意欲・態度に関する問題（全国74.0% 岡野中79.3%）、科学的な思考・表現に関する問題（全国64.9% 岡野中67.4%）、自然事象についての知識・理解に関する問題（全国68.7% 岡野中70.0%）が全国平均を上回ったことから、生徒が授業や実験に意欲的に取り組んできたこと、問題練習を多く行ったことが結果につながったと思えます。

しかし、観察・実験の技能に関する問題（全国67.0% 岡野中65.2%）が全国平均を下回りました。また、計算をともなう問題を苦手としていることもうかがえます。今後は観察・実験と問題練習をバランスよく取り入れ、総合的に力を定着させていきたいと思えます。